

自分の心には何が刻まれたか

文化祭の生徒感想文より 3

熊中だより

校長室通信
第 19 号
北九州市立熊西中学校
校長 安部朋恵

文化祭が成功したことに、ホッとしています。私は執行部ということもあったので、大きなミスは絶対にしてはいけないという思いが強かったです。だから、文化祭が大きなハプニングやミスがなく終わることができてうれしかったです。

私はこの文化祭で真剣に取り組むことの大切さを学びました。2年生の学年ステージでは、練習の時から真剣に取り組むことができたからこそ、とてもハーモニーがきれいで、とてもよいステージになったと思います。

私は「刻め ～熊中の歴史に～」というスローガンを達成できたと思います。熊中の新しい1ページにこの文化祭を刻むことができてよかったです。

私は執行部の中ではプログラム係でした。ただ一瞬だけしか見てもらえないプログラムも、作るのとはとても大変で時間がかかりました。何かを作る大変さを、私はこの文化祭で実感しました。

何か一つのことをみんなでやりとげることは簡単ではないけど、真剣に取り組めば成功することが、文化祭を終えて改めてわかりました。次の行事や来年の文化祭も成功させることができるように、一生懸命 頑張りたいと思います。今回の文化祭が成功し、本当に良かったです。

2の3 武内 佐綺



自分は劇の照明をやることになった。最初は楽に出来るものだと思っていたが、全然楽ではなかった。スポットライトはとても高出力の電力を使うので、その周りはとても熱く、汗がとても出た。そして、出演者にただ当てればいわけではなく、監督から多くの注文を言われた。監督の指示はどんどん増えていき、大変だったが、やりがいのある仕事だった。

体育館の練習ではないときは、セットの仕事を手伝った。自分は絵が苦手なので、セットの仕事は最初 嫌なイメージがあった。しかし、ほとんど絵を描くことはなく、工作系が多く、とても助かった。自分は照明とセットをほぼ並行して行っていたので一つ分かったことがあった。それは裏方はどの仕事も楽じゃないということ。キャストではない裏方だからといって甘く見るのではなく、どれも大変な仕事だがやりがいがあり、そして楽しい仕事だと考えた。

文化祭当日、ところどころトラブルはあったが、劇は大成功だった。この最後の文化祭を終えて、みんなで協力したら何でも上手くいくということが分かった。三年間 良かった。

3の1 藤尾 裕輔